

2025（令和7）年度

学生の学修状況分析レポート

大垣女子短期大学
OGAKI WOMEN'S COLLEGE

教育改善・学生支援・FD活動・内部質保証に資するIRエビデンスに基づく学修成果の分析

PUBLISHED BY

総合教育センター 教学IR室

DATE OF ISSUE

令和8年6月

DOCUMENT TYPE

情報公開資料

CHAPTER 01 — 分析の目的

IRによるエビデンスに基づく教育改善

本学では、学生の学修成果を客観的データで分析し、教育改善、学生支援、FD活動、内部質保証に活用している。令和7年度の学修状況を可視化し、令和8年度以降の継続的な改善につなげることを目的とする。



FIVE PURPOSES

分析が支える5つの目的

- 01 教育改善
- 02 学生支援
- 03 FD活動
- 04 内部質保証
- 05 IRエビデンス活用

CHAPTER 02 — 分析対象

使用データと対象学生

単位修得、GPA、GPC、学修行動等調査、短大生調査のデータに基づき、令和7年度の学修状況を多角的に分析した。

DATA OVERVIEW

5つのデータソースで学修成果を多角的に分析



BY DEPARTMENT

学科別算出対象者数

学科	1年	2年	3年	合計
幼児教育学科	42	34	38	114
デザイン美術学科	47	43	—	90
音楽総合学科	30	44	—	74
歯科衛生学科	51	24	38	113
全体	170	145	76	391

DATA SOURCES

6つの使用資料



CHAPTER 03 — 分析項目全体像

データから改善アクションへの流れ

客観データの収集から学生満足度の把握、そして具体的改善アクションへ。7段階のフローで分析を進め、PDCBAサイクル実装につなげる。

PHASE A — 客観データ収集

STEP 01

単位

単位修得率

STEP 02

GPA

学生の成績

STEP 03

GPC

科目評価

PHASE B — 学修体験分析

STEP 04

学修行動

調査

STEP 05

短大生調査

成長実感

STEP 06

学生満足度

充足・推奨

PHASE C — 改善実装

STEP 07

改善ACT

改善アクション

OUTPUT — PDCBAサイクル実装

分析が示す3つの判断軸

JUDGEMENT 01

学生支援対象の把握

GPA・単位修得状況から、継続確認が必要な学生層を抽出する

JUDGEMENT 02

授業改善に向けた確認対象の把握

GPC等から、授業内容・評価方法等を確認すべき科目を整理する

JUDGEMENT 03

学修体験の総合評価

満足度・推奨度・成長実感等から、学修体験全体を多面的に評価する

CHAPTER 04 — 学修成果の概要

主要指標ダッシュボード

令和7年度の学修状況に関する主要指標。全体平均GPAは目標値2.30を上回り、全体水準は維持されている。下位層の支援は次年度の継続確認対象として整理する。



GPA DISTRIBUTION

全体GPA分布（対象399名）



INSIGHT

全体平均GPAは **2.62** と目標値2.30を上回った。一方、GPA2.30未満は28.3%であり、学科・学年別の学修支援を継続して確認する。

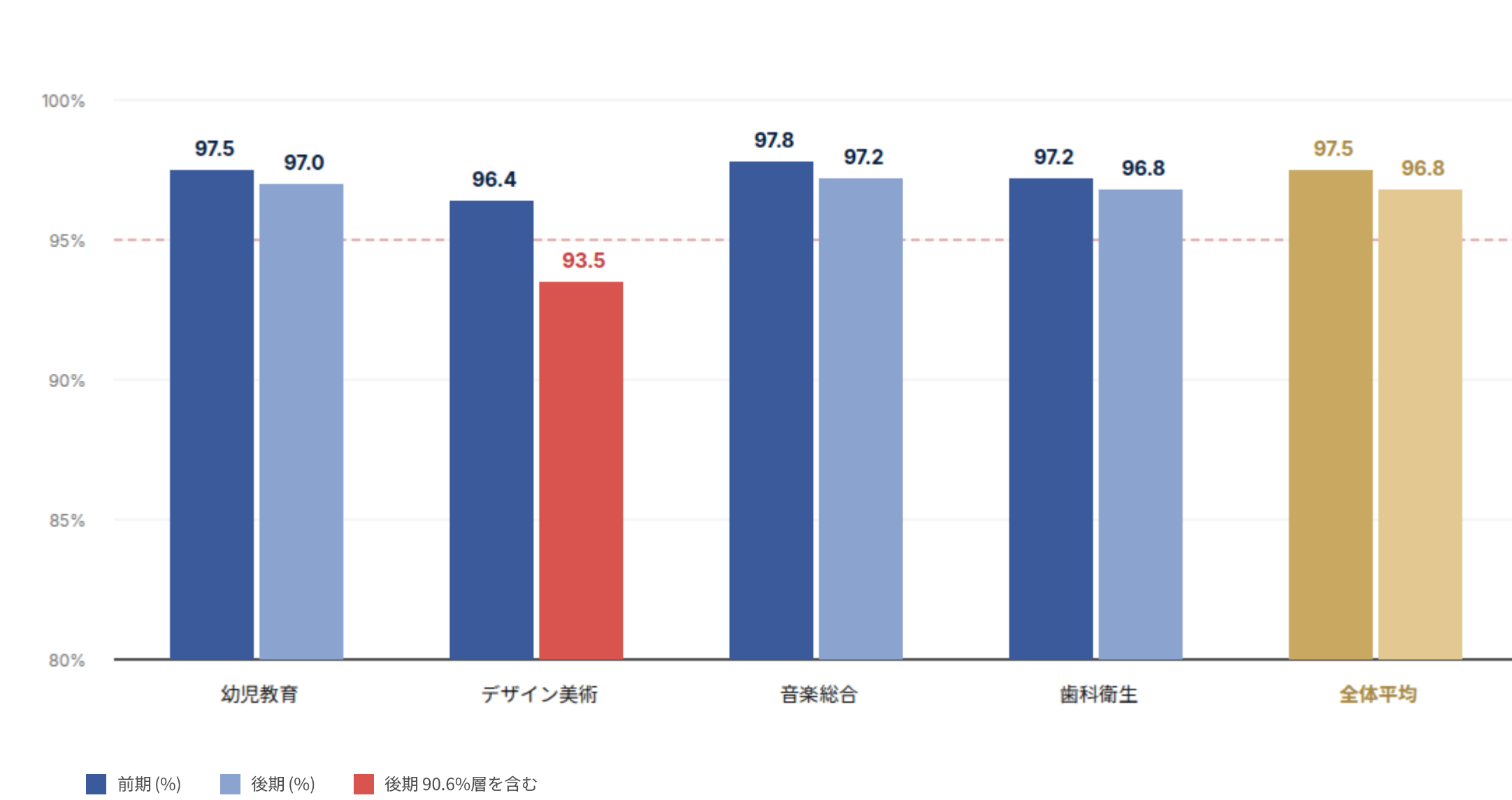
CHAPTER 05 — 単位修得率分析

前期・後期 単位修得率の学科別比較

全体では前期97.5%、後期96.8%と95%を超える水準を維持している。デザイン美術学科1年生の後期に注目すべき変動が見られる。

BAR CHART

学科別 前期・後期 単位修得率



KEY OBSERVATIONS

学科別コメント

FOCUS 01

デザイン美術学科 1年生

後期単位修得率は**90.6%**。全体平均より6.2pt低い。制作課題の進行、提出物、講評参加等を確認する。

NOTE 02

歯科衛生学科

単位修得率は維持。ただしGPA下位層（1年生）については継続確認する。

CHECK 03

全体傾向

前期・後期とも95%超を維持。教育課程は安定した修得実績を示している。

ACTION ▶ 制作進行/提出/講評参加の確認支援

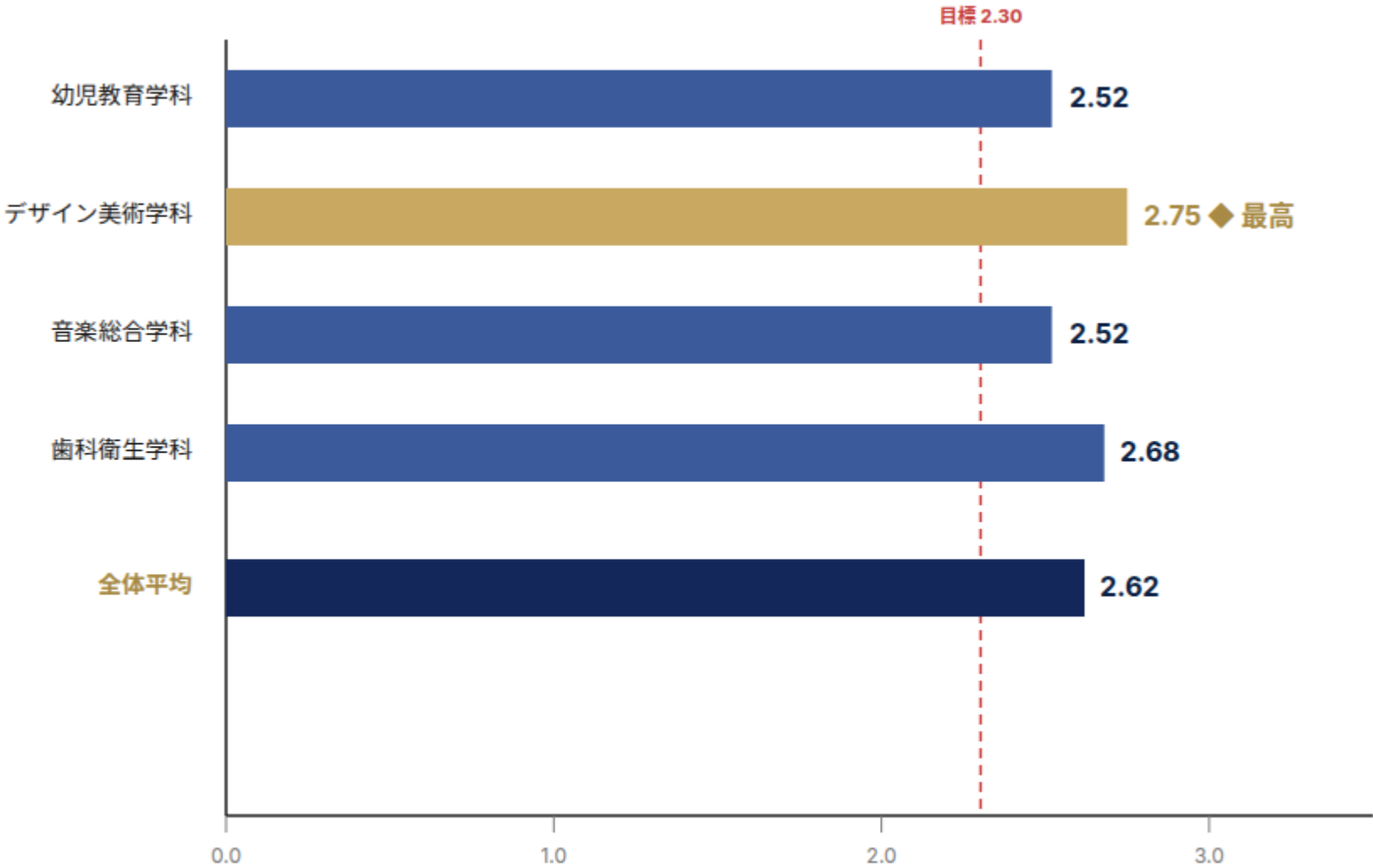
CHAPTER 06 — GPA分析

学科別GPAと下位層の割合

デザイン美術学科は2.75で最高。音楽総合・幼児教育は2.52。平均値だけでは把握しにくい下位層を可視化する。

HORIZONTAL BAR

学科別 平均GPA（目標2.30以上）



LOWER PERCENTILE

下位層の割合（学科別）

学科	2.30未満	2.00未満
幼児教育学科	31名27.0%	23名20.0%
デザイン美術学科	22名23.7%	16名17.2%
音楽総合学科	25名33.3%	15名20.0%
歯科衛生学科	35名30.2%	23名19.8%
全体	113名28.3%	77名19.3%

FOCUS 平均値だけでは下位層を把握しにくい

全体平均GPA 2.62 は目標達成。一方、2.30未満は28.3%（113名）。学科・学年別の支援対象を継続確認する。

CHAPTER 07-B — 下位1/4の精査

成績下位4分の1（Q1）の分布と精査資料

高等教育の修学支援新制度における機関要件調査用の精査エビデンス。学科・学年ごとに下位1/4（25パーセンタイル）の境界GPAを算出し、該当層を特定。全体GPA分布における下位25%帯（GPA 2.00未満を含む層）を把握する。

INSTITUTIONAL REQUIREMENT ▶ 高等教育の修学支援新制度 機関要件調査 成績分布精査エビデンス

SECTION A — BY DEPARTMENT × YEAR

学科×学年別 平均・中央値・下位1/4境界GPAと該当人数

学科	学年	対象人数	平均GPA	中央値 MEDIAN / Q2	下位1/4境界 Q1 BOUNDARY	2.30未満
幼児教育学科	1年	42	2.61	2.81	1.99	13名 31.0%
幼児教育学科	2年	35	2.59	2.77	2.41	5名 14.3%
幼児教育学科	3年	38	2.35	2.48	2.18	13名 34.2%
デザイン美術学科	1年	49	2.66	2.91	2.27	13名 26.5%
デザイン美術学科	2年	44	2.84	2.94	2.39	9名 20.5%
音楽総合学科	1年	31	2.56	2.57	2.12	10名 32.3%
音楽総合学科	2年	44	2.49	2.69	2.05	15名 34.1%
歯科衛生学科	1年	51	2.30	2.20	1.70	27名 52.9%
歯科衛生学科	2年	24	2.83	2.97	2.57	3名 12.5%
歯科衛生学科	3年	41	3.05	3.18	2.92	5名 12.2%
全体	—	399	2.62	—	下位25%帯	113名 28.3%

NOTE ▶ Q1 / MEDIAN SCRUTINY

学科・学年ごとに平均GPA・中央値（Q2）・下位1/4境界（Q1）を算出。Q1境界が低い学年（歯科衛生1年 1.65／幼児教育1年 1.95／音楽総合2年 2.00／幼児教育3年 2.16）に加え、**中央値が2.30を下回る歯科衛生1年（中央値2.20）**を該当層として特定。出典：本学 教学IR室「学修状況分析レポート 令和7年度」算出値

SECTION B — WHOLE COLLEGE

全体の下位25%帯



DEPARTMENT Q1 SUMMARY

幼児教育学科 Median 最低 2.48 Q1 最低 1.95 2.30未満 31名 / 27.0%	デザイン美術学科 Median 最低 2.91 Q1 最低 2.27 2.30未満 22名 / 23.4%
音楽総合学科 Median 最低 2.57 Q1 最低 2.00 2.30未満 25名 / 33.3%	歯科衛生学科 Median 最低 2.20 Q1 最低 1.65 2.30未満 35名 / 30.2%

CHAPTER 07 — 学科×学年 GPA

学科×学年 平均GPAと支援対象

セル色は平均GPAの水準を表す。右側は学年別のGPA2.30未満の支援対象人数。継続確認が必要な学年を一目で把握する。

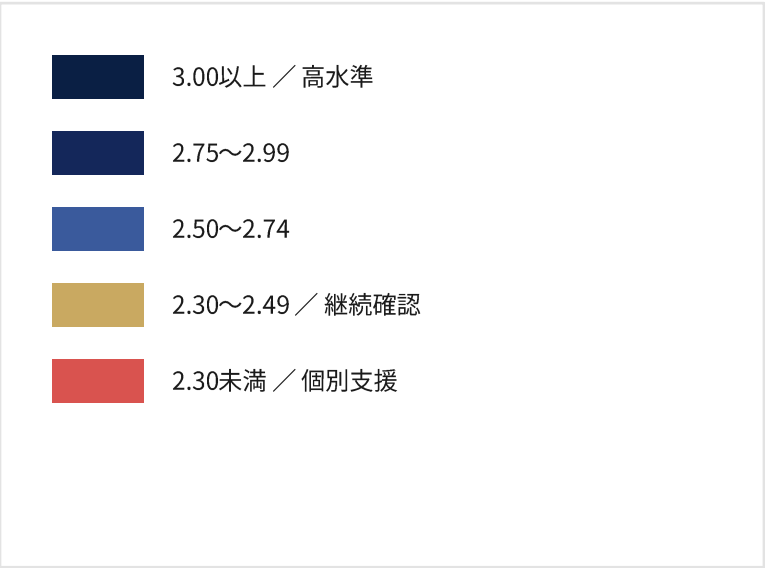
HEATMAP — AVG GPA × SUPPORT TARGET

学科×学年 平均GPA / GPA2.30未満人数



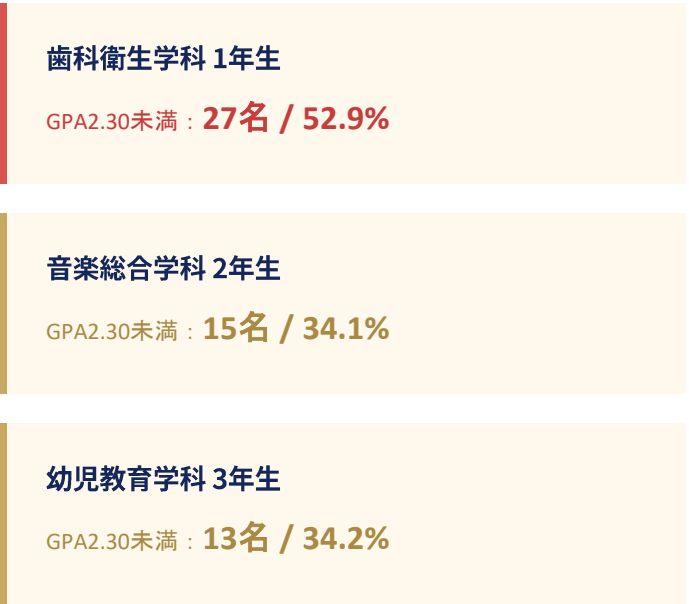
LEGEND

GPA水準カラスケール



PRIORITY SEGMENT

継続確認が必要な学年



CHAPTER 08 — GPC分析

授業改善に向けた確認対象科目（GPC2.00未満）

GPCの目標値は2.00以上。GPC2.00未満の科目については、授業内容・評価方法・課題・出席状況等を確認し、授業改善の資料として活用する。下回る科目は授業改善の対象、特に重点確認科目は4科目を色分けで強調。

CRITICAL FOCUS

重点確認科目

DENTAL HYGIENE 歯科衛生3年 後期GPC 歯科総合演習Ⅱ 0.79	FOREIGN LANGUAGE 教養科目 後期 外国語コミュニケーションⅡ 1.53	SCIENCE BASE デザイン美術2年 前期 C Gアニメーション特講 1.08	MUSIC THERAPY 音楽総合1年 後期 音楽療法・基礎 1.25
---	--	---	---

SUBJECT LIST — GPC < 2.00

確認対象科目一覧

FIRST SEMESTER 前期

科目	GPC
歯科衛生2年・衛生学・公衆衛生学	1.14
歯科衛生1年・生理学	1.19
歯科衛生1年・病理学	1.64
歯科衛生1年・解剖学	1.68
音楽総合1年・発達心理学	1.70
デザイン美術2年・CGアニメーション特講	1.08
音楽総合1年・音楽療法実践Ⅰ	1.75
幼児教育2年・音楽療法・臨床	1.90
教養科目・日本国憲法	1.90

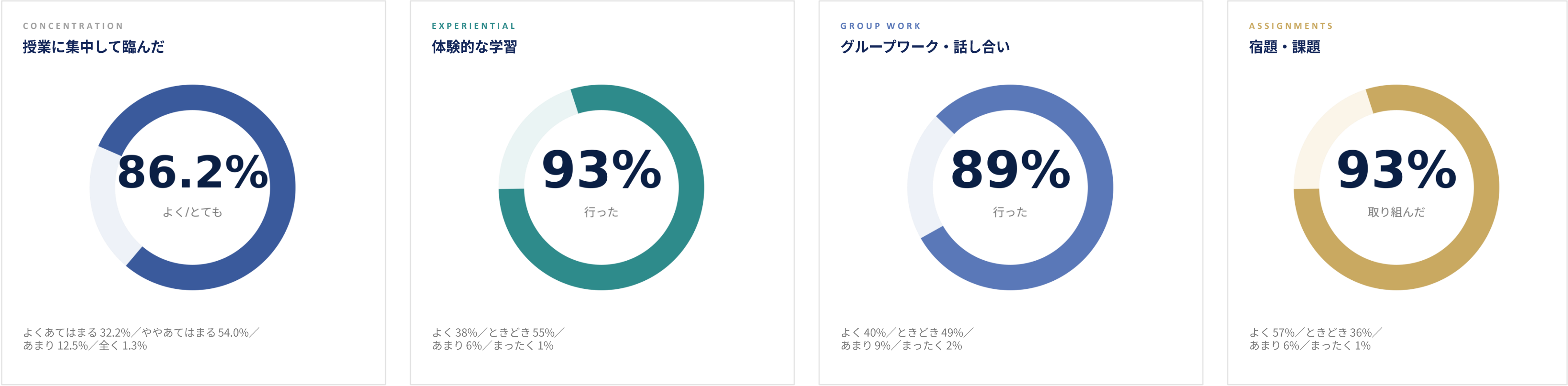
SECOND SEMESTER 後期

科目	GPC
歯科衛生3年・歯科総合演習Ⅱ	0.79
歯科衛生1年・口腔解剖学Ⅱ	1.56
歯科衛生1年・薬理学	1.89
幼児教育3年・保育・教職実践演習Ⅱ	1.57
音楽総合2年・音楽療法・基礎	1.25
デザイン美術2年・創作美術：展示と交流	1.65
デザイン美術1年・Webデザイン基礎	1.79
音楽総合2年・打楽器リペア演習	1.93
教養科目・外国語コミュニケーションⅡ	1.53

CHAPTER 09 — 学修行動調査

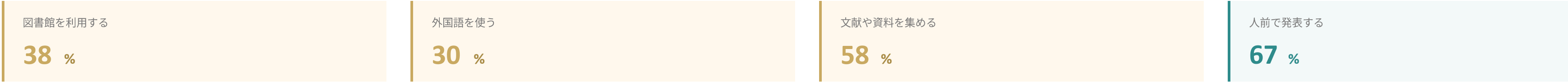
授業内活動の実施状況（回答 379名）

体験的学習・課題への取組・グループワークは高い水準。一方、図書館利用・外国語使用・文献収集は継続確認項目。



SUPPORT FOCUS

継続確認が必要な学修行動



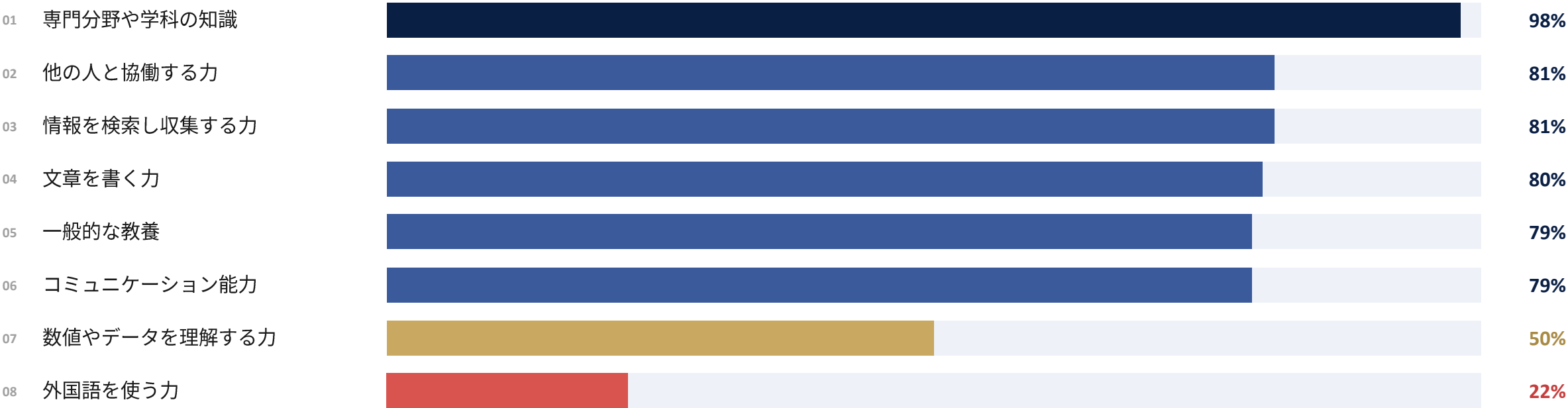
CHAPTER 10 — 短大生調査

学生が成長を実感している能力

専門知識の向上実感は98%だが外国語を使う力は22%。専門教育の成果と次の確認項目が見える。

CAPABILITY GROWTH（「とても／少し増えた」）

能力・知識の変化（成長実感）



HIGHEST GROWTH

専門分野の知識

98%

「とても増えた」＋「少し増えた」回答。
専門教育の成果として最も明確な成長実感。

LOWEST GROWTH

外国語・データ理解は確認項目

外国語を使う 数値・データ理解

22% 50%

学修機会の確認、データ活用授業のあり方を継続的に確認する。回答349名／回答率86.0%

CHAPTER 11 — 学生生活

満足度・推奨度・負担感の比較

学びの評価77%、総合評価80%が高い水準。推奨度63%、学費負担感55%。学びの満足と生活面の負担が併存する。

CASE 01HIGH

満足度

短大での学びが「楽しい・うれしい」と回答

80%

学生生活が充実している	76%
短大の学びが役に立つ	77%
免許・資格活用の仕事希望	73%

CASE 02MEDIUM

推奨度

知人や家族にすすめたい

63%

学びへの評価・総合評価が高い一方、**学術的ではなく生活・制度面**を継続して確認する。

交通・学費	—
教科書費・時間割	—
履修の柔軟性	—

CASE 03CAUTION

学費・生活費 負担感

学費・生活費の負担を感じる

55%

通学費・学費・教科書費に負担感あり。アルバイト時間との関連性も確認。

RELATED ▶

アルバイト時間 **6～10時間/週 28%**

INSIGHT

学びの評価は高い。推奨度を下げる要因として **生活・制度面（交通・教科書費・履修柔軟性）** が確認されている。学修支援と生活支援の両輪で改善を進める。

CHAPTER 12 — 課題整理

継続確認が必要な5つの事項

令和7年度の分析から、外国語・図書館利用・授業外学修・GPA下位層・GPC低位科目の5つを継続確認項目として整理した。

CHALLENGE 01
GLOBAL LITERACY

外国語

向上実感

22 %

外国語コミュニケーションII GPC

1.53

ACTION

クラス分け／履修案内／学修支援を確認

CHALLENGE 02
LIBRARY USAGE

図書館利用

図書館を利用する

38 %

文献や資料を集める

58 %

ACTION

授業内資料検索の機会と利用支援を確認

CHALLENGE 03
SELF-STUDY HOURS

授業外学修

授業に関係のない学習 0時間

58 %

授業に関する勉強

1～2時間 47%

ACTION

課題・予復習の設計／時間割と履修負担を確認

CHALLENGE 04
LOWER GPA TIER

GPA下位層

GPA 2.30未満

113 名

28.3 % of 399

GPA 2.00未満

77 名

19.3 %

ACTION

面談／補講・個別指導で学修支援を強化

CHALLENGE 05
LOW GPC COURSES

GPC低位科目

GPC 2.00 未満科目

20 科目

歯科総合演習II／
外国語コミュニケーションII／
音楽療法・基礎 等

ACTION

授業内容・評価方法・課題・出席を確認

これらの項目は、学生支援と授業改善の両面から継続的に確認する。GPA下位／GPC低位科目／外国語／図書館／学修時間は次年度PDCBAサイクルの確認対象。

CHAPTER 13 — 学 科 別 確 認 事 項

4学科の確認事項と確認の着眼点

学科ごとに数値結果と継続確認層を整理し、次年度の個別支援検討の基礎資料とする。

DEPT 01 ▶ 114名

FOCUS ▶ 3年

幼児教育学科

KEY METRICS

1年 **2.61** 2年 **2.59** 3年 **2.35**

継続確認層：3年 13名 / 34.2%
長期実習・就職活動時期の学修フォロー

KEY FOCUS

- ▶ 体験的学習・課題への取組は高水準を維持
- ▶ 乳児保育Ⅱ GPC **1.79**
- ▶ 3年生の学修・就職活動の両立を確認

DEPT 02 ▶ 90名

FOCUS ▶ 1年後期

デザイン美術学科

KEY METRICS

1年 GPA **2.66** 2年 GPA **2.84**

1年後期単位修得率：90.6% (-6.2pt)
制作課題の進行・提出・講評参加を確認

KEY FOCUS

- ▶ Webデザイン基礎 GPC **1.57**
- ▶ 制作課題のフィードバック設計
- ▶ 提出物・講評参加の出席確認

DEPT 03 ▶ 74名

FOCUS ▶ 2年

音楽総合学科

KEY METRICS

1年 **2.56** 2年 **2.49**

継続確認層：2年 15名 / 34.1%
音楽療法等 個別サポートを確認

KEY FOCUS

- ▶ 音楽療法・基礎 GPC **1.25**
- ▶ 音楽療法実践Ⅰ GPC **1.75**
- ▶ レポートリー設計と練習・補講の機会確認

DEPT 04 ▶ 113名

FOCUS ▶ 1年・3年

歯科衛生学科

KEY METRICS

1年 **2.30** 2年 **2.83** 3年 **3.05**

継続確認層：1年 27名 / 52.9%
基礎科目（生理学・解剖学等）の学修支援

KEY FOCUS

- ▶ 歯科総合演習Ⅱ GPC **0.79**
- ▶ 生理学 **1.19**／口腔解剖学Ⅱ **1.41**
- ▶ 3年は国家試験関連科目の確認

CHAPTER 14 — 改善アクションプラン

対象・課題・改善策・担当部署

分析結果から導かれた7つの改善アクション。担当を明確化し、PDCBAサイクルにより、数値確認と要因分析を踏まえて継続的に改善する。

P PLAN P 対象 D DATA／根拠数値 C CHECK／具体的対応（B：要因分析含む） A ACTION／担当部署

No.No.	P TARGET対象	D DATA 根拠数値	C CHECK + B BECAUSE 具体的対応 / 要因分析の観点	A ACTION 担当部署
FOCUS 01	歯科衛生学科 1年生	GPA2.30未満 27名 / 52.9% GPA2.00未満 —	面談・基礎科目の補習・小テスト導入の確認。基礎理解の定着状況と学修時間配分を要因分析。	学科 教務 教学IR
FOCUS 02 02	歯科衛生学科 3年生	歯科総合演習Ⅱ GPC 0.79	国家試験関連の科目運営・教材・到達度確認。出席状況・課題達成と授業時間との関係を分析。	学科 国家試験対策室
FOCUS 03	音楽総合学科 2年生	GPA2.30未満 15名 / 34.1%（中央値）	実技・卒業研究の進捗確認。個別練習サポート、レポートリー設計の見直し。	学科 教務 事務局
FOCUS 04	幼児教育学科 3年生	GPA2.30未満 13名 / 34.2%（中央値）	長期実習・卒業研究・就職活動の時期的負荷を確認。学修・実習・進路の三軸で要因分析。	学科 教務 事務局
FOCUS 05	デザイン美術学科 1年生	後期 単位修得率 90.6%	制作課題の進行管理・提出期限・講評参加。1年後半の負荷集中を要因分析し、課題設計を見直す。	学科 教務
CROSS 06	外国語コミュニケーションⅡ	GPC 1.53 ／向上実感 22%	クラス分け・到達目標・評価基準の確認。学習動機との関係を要因分析し、履修支援を強化。	教養科目担当 教務
CROSS 07	学修時間・学生満足度	授業外学修0時間 58%／推奨度 63%	授業外学修の設計・課題量の見直し。生活・制度面（交通・教科書費・履修柔軟性）の負担要因を整理。	各学科 学生支援 事務局

CHAPTER 15 — 次年度重点確認項目

令和8年度に向けた継続確認指標

令和7年度分析を踏まえ、次年度も継続して確認する7項目。学園共通KPIと関連する基礎指標として、教学IR室が半期・年度ごとに状況を可視化する。

CHECK 01

FOCUS

学生のGPA

下位層の継続確認

2.62

2.30未満 28.3% / 2.00未満 19.3%

CHECK 02

FOCUS

科目のGPC

低位科目の継続確認

20 科目

GPC2.00未満 / 上位科目も継続確認

CHECK 03

PRIORITY

国家試験関連

歯科衛生学科3年

歯科総合演習III

GPC 0.79

CHECK 04

CHECK

単位修得率

前期／後期 全体

97.5 / 96.8 %

後期90.6%層（デザイン美術1年）は継続確認

CHECK 05

SELF-STUDY

学修時間

授業外自主学修・関連学修

授業に關係のない学習 0時間

58 %

授業関連学修 1～2時間

47 %

課題と予復習設計、履修負担との関係を継続確認

CHECK 06

LIBRARY

図書館利用

図書館利用・資料検索の利用状況

図書館を利用する

38 %

文献・資料を集める

58 %

授業内資料検索の機会・利用導線を確認

CHECK 07

SATISFACTION

学生満足度

総合評価・学びの評価・推奨度・負担感

総合評価

80%

学びの評価

77%

推奨度

63%

負担感

55%

NOTE ▶ CONTINUOUS CHECK

7つの継続確認指標をもとに、令和8年度の教育改善・学生支援・内部質保証に活用する。学園共通KPIと関連する基礎指標として位置付ける。

CHAPTER 16 — まとめ

令和7年度の成果と次年度の取組

教育活動の成果と継続確認すべき事項を整理し、次年度の取組を明確化する。

✓

SECTION A — ACHIEVEMENT

教育活動の成果

単位修得率	前期／後期の安定した水準を維持	97.5 / 96.8 %
全体平均GPA	目標値2.30を上回る	2.62
専門知識の向上実感	専門教育の成果が高く評価された	98 %
学生満足・総合評価	学びの評価77％・推奨度63％	80 %

▶

SECTION B — CONTINUOUS CHECK

継続確認事項と次年度取組

GPA下位層への個別支援	歯科衛生 1年・音楽総合2年・幼児教育3年	113名 / 28.3 %
GPC2.00未満科目の授業点検	授業内容・評価方法・課題・出席を確認	20 科目
外国語の学修機会の確認	クラス分け・履修案内・学修支援	向上実感 22 %
授業外学修時間の設計	課題量と予復習導線を再点検	0時間 58 %
図書館利用・資料検索の促進	授業内資料検索の機会と動線	利用 38 %
生活・制度面の負担要因の整理	交通・教科書費・履修柔軟性等を確認	推奨度 63 %

CLOSING ▶ PDCBA × IR EVIDENCE

令和7年度の学修状況は安定した水準。下位層・低位科目・外国語・学修時間・図書館・生活面については、PDCBAサイクルで継続確認し、教育改善・学生支援・FD活動・内部質保証に活用する。